



日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチャー・ワンダーランド〉

朝日カルチャーセンター横浜教室

『社会文化史から読み解く 「名ピアニスト」と「オーケストラ」の関係』

横浜定期関連講座
第7弾
開催決定！

～ショパン『ピアノ協奏曲第2番』、サン＝サーンス：交響曲第3番《オルガン付き》等をめぐって～

2024年2月4日(日) 14:00～15:30

講師：小宮正安（横浜国立大学教授）、中川日出鷹（ファゴット）

西洋音楽の歴史において、名音楽家といえば、作曲はもちろん、鍵盤楽器をはじめとする他の楽器、さらには指揮もできる存在が当たり前でした。ですが、世の中での分業体制が進む中で『ピアニスト』という専門家が登場するようになると、こうしたマルチタレント的な音楽家のあり方は崩れてゆきます。この講座では、古き西洋音楽の伝統がまだ辛うじて保たれていた時代に活躍した『名ピアニスト』のショパンやサン＝サーンスに焦点を当てながら、彼らが自らの作品でオーケストラとどのように向き合っていたのかを、社会文化史の視点から探ります。

またこれらの作品に具わった音楽的な仕掛けを、日本フィル・ファゴット奏者の中川日出鷹さんの演奏やインタビューも交えてお届けします。（小宮正安さん・記）

※詳細は挟み込みのチラシやホームページをご確認ください。

Next YOKOHAMA

第395回 横浜定期演奏会

2024年3月30日(土) 17:00 横浜みなとみらいホール

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

ヴァイオリン：神尾真由子

モーツァルト：

ヴァイオリン協奏曲第5番
《トルコ風》

サン＝サーンス：

交響曲第3番《オルガン付き》

©山本倫子



小林研一郎

© Makoto Kamiya



神尾真由子

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P 完売 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席はS席以外から選べます。

※車いすおよび障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。



日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第394回

横浜定期演奏会

394th YOKOHAMA Subscription Concert

2024年1月20日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm January 20th(Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援：神奈川新聞社、+vkk、シンガポール共和国大使館

協力：横浜みなとみらいホール

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（創造団体支援））

独立行政法人日本芸術文化振興会

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
——創立指揮者 渡邊 暁雄——



文化庁

日本フィルハーモニー交響楽団 カーチュン・ウォン首席指揮者就任記者懇談会 レポート (抜粋)

2023年10月13日、アークヒルズクラブにてカーチュン・ウォン首席指揮者就任記者懇談会を行いました。

首席指揮者就任から今後の活動 益満行裕 (企画部長)

古典から現代に至るまで、カーチュン・ウォンの指揮は、印刷された音符を立体化させ、作品の持つドラマや形式すらも明確に描き出し、「クラシック」の価値を博物館的に押し込めるのではなく、現代にも通じ得るものとして明示してくれます。

今後は、2026年の創立70周年を念頭に、順次、彼の音楽的ルーツであるマーラー、そこにブルックナーが加わり、アジアツアーも計画しております。

マエストロは先日開示された東京音楽大学所蔵の作曲家伊福部昭の研究資料も早々に閲覧しに行ったそうです。指揮台の華やかさを裏支えするこういった研究熱心なところも尊敬に値します。カーチュン・ウォンと日本フィルは、これまでの偉大な先達たちと築き上げてきた路線を継承しつつも、新たな個性と音楽性を創造すべく今までにない音楽の場を提供してまいります。

首席指揮者カーチュン・ウォンより ごあいさつ

私は今、JPOの楽員たちとの仕事をとても楽しんでます。最近では良き音楽的なパートナーという信頼関係も感じられてきています。

日本に来た時には日本の文化に大きなインスピレーションを受けました。その中でも伊福部昭の作品に携わることができ、そしてこれから伊福部のような作曲家の作品を、海外で演奏することができるようになったということ、とても嬉しく思っています。来年、私が首席客演指揮者を務めるドレスデン・フィルでシンフォニア・タプカーラを演奏することになりました。今までは西洋の最高のものを日本に取り入れていたのが、我々は今、最高の日本の文化を世界のクラシック業界の方々と分かち合えるのです。このような機会を私に与えてくださり本当にありがとうございます。

Q. 日本人作曲家が生み出す音楽の魅力とは？

A. 各作曲家というのはそれぞれ異なる人たちだと思っています。私は若い頃作曲を勉強してましたので、どのような構成なのか、どうやって組み合わせているのか、構造を考えるのがとても好きです。日本人作曲家たちがどのような形でこの音楽を作っているのかに興味があり、決して日本人の曲だから演奏したいというような考えではありません。この曲をどうしても演奏しなければいけないと私自身が感じてしまうのです。日本は私にとって非常に大きなインスピレーションを与えてくれる国です。アジアの中でも西洋の文化を大々的に取り入れた、初期の国で、西洋音楽も本当に自分のものとして取り入れています。決してものまねではありません。伊福部、武満、彼らはそれを見事にされた作曲家ではないかと思えます。



全文はホームページから

魔性のダンス —日本フィルの「伝統」、カーチュンによって新たな展開へ

ベルリオーズの幻想交響曲は日本フィルにとって渡邊暁雄、ミュンシュ、小澤征爾、小林研一郎、ラザレフ、インキネン等々歴代の名マエストロたちと繰り返し演奏してきた定番中の定番。今回は若き首席指揮者カーチュン・ウォンがベルリオーズの「仕掛けた」様々な音のマジックをどのように解き明かしてくれるのでしょうか？グレゴリオ聖歌に由来する「怒りの日」の旋律が《幻想》と共通するラフマニノフのパガニーニ狂詩曲では、名手上原彩子が登場。オープニングにはウォンと日本フィルが継続的に取り組んでいる作曲家伊福部昭のパレエ音楽を取り上げます。

Programs

伊福部昭：

舞踊曲《サロメ》より「7つのヴェールの踊り」(約13分)

IFUKUBE Akira: 'Dance of the Seven Veils' from the "Salomé"

ラフマニノフ：

パガニーニの主題による狂詩曲 op.43 (約24分)*

Sergei RACHMANINOV: Rhapsody on a Theme of Paganini, op.43

——— 休憩 (15 分) Intermission ———

ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14 (約53分)

Hector BERLIOZ: Symphonie Fantastique, op.14

指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]

Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor

ピアノ：上原彩子*

Piano: UEHARA Ayako

コンサートマスター：木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

© Angie Kremer



指揮：
カーチュン・ウォン
[首席指揮者]

日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を務めるシンガポール出身のカーチュン・ウォンは、その舞台における圧倒的な存在感と東洋と西洋の芸術的遺産を探究し続ける思慮深さにおいて国際的に高く評価されている。2025 年秋からはサー・マーク・エルダー氏の後任として、英国マンチェスターに本拠を置くハレ管弦楽団の首席指揮者兼アーティスト・アドバイザーに就任することが決定している。

2016 年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝。ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラに客演。

ウォンは多くの現代作曲家と強い信頼関係を築いており、今シーズンはバービカン・センターで BBC 交響楽団と共に細川俊夫の《祈る人》の英国初演、およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者就任記念演奏会のために特別に委嘱された、タイの作曲家ナローン・プランチャルーンの《影の反映》の世界初演、また 2022 年には高名な導師でありインド人ヴァイオリニストであるカラ・ラムナスのために書かれた、レーナ・エスマイルの「ヒンドゥスタンヴァイオリンのための協奏曲」をシアトル交響楽団演奏にて世界初演したほか、2019 年にはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン（譚盾）の《火の儀式》の米国初演を指揮している。国内においては日本フィルハーモニー交響楽団とのサントリーホール定期公演シリーズにて伊福部昭、芥川也寸志、小山清茂、外山雄三らの作品を定期的に演奏している。2022 年、東京オペラシティ財団の招聘により、武満徹の意欲的な作品《弧（アーク）》を中心とした管弦楽作品を集めた公演を大成功に導き、日本の主要批評家によってその年の最も優れた演奏会の一つに選ばれた。



← YouTube チャンネル
【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

© 武藤 章



ピアノ：**上原彩子**

3 歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990 年よりヤマハマスタークラスに在籍。ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、江口文子、浦壁信二各氏に師事。第 3 回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール A 部門第 1 位を始め多くのコンクールで入賞を果たす。2002 年 6 月には、第 12 回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。

第 18 回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。

これまでに国内外にて演奏活動を行い、2004 年 12 月にはデュツ指揮 NHK 交響楽団と共演し、2004 年度ベスト・ソリストに選ばれた。CD は EMI クラシックスから 3 枚がワールドワイドで発売された他、キングレコードより『上原彩子のくるみ割り人形』『ラフマニノフ 13 の前奏曲』『上原彩子のモーツァルト & チャイコフスキー』『デビュー 20 周年記念コンサート・ライブ盤』がリリースされている。

2006 年 1 月 10 日には「日本におけるロシア文化フェスティバル 2006」オープニング・ガラコンサートでゲルギエフ指揮マリンスキー管弦楽団と共演、また、2008 年 9-10 月にはクリスチャン・ヤルヴィ指揮ウィントーン・キュンストラ管弦楽団とのオーストリア及び日本ツアーを行ない、2017 年 3 月には、ベルリン及び日本国内 4 都市において、エリッ・インバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。

東京藝術大学音楽学部 早期教育リサーチセンター准教授。令和 4 年度文化庁長官表彰受賞。

オフィシャル・ホームページ：<https://www.japanarts.co.jp/artist/AyakoUEHARA>



今日のコンサートの聴きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの
楽しい解説をお楽しみください！

16 時 20 分
より
大ホール内
にて♪

八木宏之（やぎ ひろゆき）● 1990 年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（修士：音楽学）およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程（Master 2 Professionnel Médiation de la Musique）修了。
2021 年春に Web メディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアシオンを設立。クラシック音楽を中心に、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのプレトークなども積極的に行なっている。

お客様へのお願い ● 演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

伊福部昭：舞踊曲《サロメ》より「7つのヴェールの踊り」

日本作曲界の代表者の1人である伊福部昭(1914-2006)は、北海道の釧路に生まれ、北海道大学卒業後林野局に務められた後、独学で作曲を学んだ。1935年、「日本狂詩曲」でパリにおけるチェレブニン賞(オネゲル、イペール、タンスマン、ルーセルなど錚々たる面々が審査員を務めた)を獲得。これが世界的に認められるきっかけとなり、翌年来日したコンクール主催者のアレクサンドル・チェレブニンに短期間師事している。以後「土俗の三連画」「交響譚詩」「シンフォニア・タブカーラ」など、日本の土壌に密着した土俗的な作品を発表し、芥川也寸志をはじめとする多くの後進に影響を与えた。

第二次世界大戦終結後間もない1948年には、オスカー・ワイルド原作の戯曲《サロメ》を題材にしたバレエ音楽を、貝谷八百子(1921-91)の依頼により作曲(なお彼女自身は、元々リヒャルト・シュトラウスがワイルドの戯曲に基づいて作曲したオペラ『サロメ』を使おうと考えていたが、著作権の問題から断念し、伊福部に新曲を依頼した)。彼女が主催するバレエ団の創立10周年記念公演で初演され、以後180回も上演される人気作となった。1986年に演奏会用に改訂を行い、原曲では実上演上の制約のために描き切れなかった個所がかなり書き足されている。

《サロメ》はヘロデ王の誕生日の宴が舞台となっている。王は心寄せる継娘(姪)サロメに、踊れば好きなものを褒美にすると条件を出し、サロメは7つのヴェールを一枚ずつ脱ぎながら、7種の舞曲を踊り分けていく。……踊り終わったサロメは捕らえられている預言者ヨナカーン(密かに恋していた)の首を所望し、生首を愛で狂乱状態へ。王は絶望と怒りと恐れにかられて、サロメを処刑する。

なお全曲を収めたCDは、広上淳一指揮日本フィル演奏による『伊福部昭の芸術3』で聞けることができる。

楽器編成 ピッコロ1、フルート2、アルト・フルート1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、トムトム、キューバン・ティンパレス、コンガ、ハーブ1、弦楽5部。

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 op.43

19世紀ヨーロッパ音楽は、演奏法の面でも音楽史のターニング・ポイントを迎えていた。演奏家たちはよりダイナミックで華麗なスタイルの音楽で聴衆を熱狂させるようになったが、そうした時代を背景として現れたイタリアのニコロ・パガニーニ(1782-1840)は、時の寵児として華々しい活躍を見せた音楽家のひとりである。彼は「ヴァイオリンの鬼才」の名を欲しいままにし、「悪魔と契約を結んだ」という伝説が生まれるほど、数々のスキャンダルと謎に彩られた生涯を送った。また作曲の面でも、超絶技巧に基づく数多くのヴァイオリンの名作を残し、中でも無伴奏ヴァイオリンのための《カプリース》(op.1)に収められた第24曲目の作品は、後の多くの作曲家たちのインスピレーションを刺激し、その主題に基づいた数々の名作を生み出させることとなった。

ロシアの作曲家セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)も、この《カプリース》の主題に魅せられたひとり。持ち前の華麗なピアノ技法を発揮し、パガニーニの原曲以上に演奏困難かつ聴き手を圧倒するような、序奏と24の変奏、コーダからなる大規模なラプソディを作曲した。なおこの変奏の中で、ラフマニノフはグレゴリオ聖歌《怒りの日(Dies Irae)》の旋律……ただし近年で

は彼が幼少期から親しんだロシア正教の鐘の旋律という説もある……を織り込み(第7・第10変奏、コーダ)、より劇的ですがまがしい効果を付け加えている。

楽器編成 独奏ピアノ、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、ハーブ、弦楽5部。

ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14

音楽面ではグルック、スポンティーニなどのオペラやベートーヴェンの交響曲から、文学面ではシェイクスピアやゲーテ、バイロンなどの詩劇から強く影響を受け、フランス前期ロマン主義の極端なまでの体現者であったエクトル・ベルリオーズ(1803-1869)。彼の作品と生涯に貫かれているのは、まさに「劇的」あるいは「破天荒」という美学であったに違いない。じっさい回想録(自伝)の扉に「人生は過ぎゆく影」という『マクベス』の一節を引用するほどシェイクスピアの作品を熱愛したベルリオーズは、その人生観にふさわしい劇的な恋愛を体験している。

その対象となった女性こそ、イギリスのシェイクスピア劇団の花形女優ハリエット・スミソンで、彼女の演ずるオフィーリアやジュリエットに、当時まだ無名の音楽青年であったベルリオーズは“雷の一撃”にも似た熱烈な恋心を抱いた。この“高嶺の花”スミソンへの苦悩に満ちた片恋の体験が、全5楽章からなる「幻想交響曲」のモデルとなっている(ちなみに彼の「男の一念(?)」が通じたのか、後にベルリオーズはスミソンと結ばれることとなったが、夫婦関係はほどなくして破綻した)。

「ある若い音楽家が恋愛への絶望から阿片を飲み自殺を計る。しかしその毒は致死量に至らず、彼は昏睡する中、奇怪な幻想を見る。その中で彼の愛した女性はひとつのメロディ(固定楽想)となってあらゆる場面に現れる。」プログラムには以上の説明の後、各楽章について作曲者自身の手により、次のような解説がなされている。

第1楽章：「夢・情熱」 恋人に出会う前の不安と憧れ。やがて出会いと情熱、不安、激情。そして宗教的な慰めに至る。

第2楽章：「舞踏会」 舞踏会の雑踏の中に、彼は恋人の姿を見出す。

第3楽章：「野の情景」 夏の夕べ、牧人の奏でる愛の調べが聞こえる。穏やかな心境と明るい前途。しかし恋人の不実への不安が心によぎる。遠雷。牧人の歌に応えはない。

第4楽章：「断頭台への行進」 夢の中で彼は恋人を殺す。死刑の判決が下され、彼は刑場へと引かれて行く。群衆の哄笑。最後の瞬間に、恋人の姿が脳裡をよぎる。しかしそれもギロチンの一撃で途絶える。

第5楽章：「サバ(魔女の宴)の夜の夢」 彼の葬儀に魔女や妖怪が集まっている。そこにも恋人の姿が見えるが、あの優雅な面影はもはやない。悪魔たちの歓呼。弔鐘とともにここにもパロディ化されたグレゴリオ聖歌《怒りの日(Dies Irae)》が。続いて「魔女のロンド」が鳴り響く。

楽器編成 フルード2(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替1)、クラリネット2(Es管クラリネット持替1)、ファゴット4、ホルン4、ホルネット2、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ2、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、シンバル、鐘、ハーブ2、弦楽5部。
パンダ：オーボエ1



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



怒りの日 (Dies Irae) の変容

本日の演奏会で演奏される、ラフマニノフの『パガニーニの主題による狂詩曲』と、ベルリオーズの『幻想交響曲』には、明らかな共通点がある。それは『怒りの日 (Dies Irae)』の旋律が使われていること。



『最後の審判』ハンス・メムリング画 1470年頃

この旋律（およびそこに元々付けられていたラテン語の歌詞）は、13世紀頃生まれたとされている。元来は葬儀で歌われるためのものだったが、そこではイエスがこの世に再び降臨し、生者に対しても死者に対しても天国行き or 地獄行きの裁きをおこなう、という世界観が反映されている。つまり当時の葬儀とは、亡くなった人（さらにいえばそれを送る人々）の魂が最後の審判で破滅することのないよう神に祈りを捧げる礼拝であり、またそれゆえに最後の審判＝「怒りの日」のまがまがしさが強調されることとなった。

といった具合に、かつてはきわめて敬虔な祈りの音楽だったわけだが、18世紀から19世紀にかけて、つまりヨーロッパで市民社会が生まれるのと引き換えに、その受け止められ方は徐々に変化し始める。当時は、特権階級として市民を牛耳って来た教会に対し、当の市民たちが距離を置き始めた時代。そうすると「怒りの日」も、死者の魂の救いを神に希うためではなく、むしろ人間誰しもが免れない死そのものを象徴するものとして扱われるようになった（例えばラフマニノフの場合）。あるいはあえて、そうした究極の不安に対して突き進む破滅的な人生を描くために用いられた（例えばベルリオーズの場合）。

ちなみに19世紀は近代医学が発達した結果、様々な病が克服され、平均寿命も従来とは比べものにならないほど伸びた時代である。まただからこそ、多くの人々にとって死がごく身近なものではなくなると同時に、生の領域にいつしか踏み込んでくる恐ろしい…あるいは恐ろしいがゆえに禁断の憧れを催させる…存在と受け止められるようになった。だが、人間がこの世に生を受けた以上、病も死も最終的には免れることができない。そのことをコロナ禍でまざまざと体験した私たちにとって、本日の『怒りの日』はどのように響くのだろうか。

これからの カーチュン・ウォン 演奏会

■ 第757回 東京定期演奏会

2024年1月26日 (金) 19:00
27日 (土) 14:00

サントリーホール

ピアノ: 児玉麻里、児玉 桃

チナリー・ウン: グランド・スパイラル

ブーランク: 2台のピアノのための協奏曲

コリン・マクフィー: タブー・タブー・アン

ドビュッシー: 交響詩《海》

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売
P ¥4,000 Ys ¥1,500

■ 第760回 東京定期演奏会

2024年5月10日 (金) 19:00
11日 (土) 14:00

サントリーホール

マーラー: 交響曲第9番

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売
P ¥4,000 Ys ¥1,500

■ 特別演奏会

2024年5月25日 (土) 14:00
昭和王子大学人見記念講堂

ピアノ: 小菅 優

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番

チャイコフスキー: 交響曲第5番

S ¥6,000 A ¥4,500 B ¥3,500 Gs ¥3,500
Ys ¥1,500

© Ayane Sato



指揮:カーチュン・ウォン [首席指揮者]

■ 第404回 名曲コンサート

2024年5月26日 (日) 14:00
サントリーホール

※ 5月25日と同プログラム

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000
P ¥4,000 Gs ¥5,000 Ys ¥1,500

2024年
2/14 券
発売

■ 第255回 芸劇シリーズ

2024年6月2日 (日) 14:00
東京芸術劇場

アジア音楽への
温かいまなざしをもつ
カーチュンによる坂本龍一の世界

坂本龍一: 地中海のテーマ 他
(1992年バルセロナオリンピック開会式用音楽)

S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000
Gs ¥4,000 Ys ¥1,500

2024年
2/14 券
発売

速報!

日本フィルの室内楽公演

横浜アンサンブル・ワンダーランド Vol.2 開催決定!!

6月27日 (木) 18:30 横浜みなとみらいホール 小ホール

日本フィルのクラリネットセクション4名で結成された JPO Quatre Homme plus が横浜初見参! 目玉はスペシャルアレンジによるチャイコフスキー:《ロメオとジュリエット》。乞うご期待。

詳細は
ホームページで
発表!

■ 定年のお知らせ

バス・トロンボーンの中根幹太が2023年12月17日に定年を迎えました。中根は1987年12月に入団し、トロンボーン・セクションや楽団長として活躍してまいりました。定年後も引き続き囑託の奏者として演奏いたします。今後ともご期待ください。

■ 楽団長就任のお知らせ

2023年12月18日より楽団長はトランペットの星野が務めます。

■ お知らせ

アレクサンドル・ラザレフ指揮・日本フィルハーモニー交響楽団が演奏したCD「ショスタコーヴィチ：交響曲第10番第2楽章」が「第29回日本プロ音楽録音賞2023」Best Sound部門（クラシック、ジャズ、フュージョン）において優秀賞を受賞しました。



■ テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54～23:00（第3週、第4週は再放送）。1月からカーチュン・ウォンも登場！ぜひご覧ください！

シーズンファイナルパーティー

横浜定期恒例の
シーズンファイナルパーティー！
終演後1階客席ホワイエにて
出演者のトーク、楽員による演奏を
お楽しみいただきます。奮ってご参加ください。



※ドリンクの提供は
見合わせます。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

12月の寄付者 高森 惇、匿名 8 名

敬称略・五十音順

参加費無料

好評発売中！

◆コバケン・ワールド Vol.36

2024年3月17日（日）14:00

サントリーホール

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

フルート：真鍋恵子 [首席奏者]

ドビュッシー：小組曲

モーツァルト：フルート協奏曲第2番

ベルリオーズ：幻想交響曲

S ¥6,800 A ¥5,300 B ¥4,200 P ¥3,200
Ks ¥1,500 Gs ¥4,500

◆第253回 芸劇シリーズ

2024年3月10日（日）17:00 東京芸術劇場

指揮：鈴木織衛

出演：SUPER BRASS STARS

(Tb:中川英二郎、Tp:エリック・ミヤシロ、Sax:本田雅人)

スーザ：星条旗よ永遠なれ

ホルスト：組曲《惑星》より「木星」

日本フィル feat. SUPER BRASS STARS

B. コンティ（エリック・ミヤシロ編曲）：

Gonna Fly Now（ロッキーのテーマ）
[Solo: エリック・ミヤシロ]

ウィリス/マッケイ/ホワイト（エリック・ミヤシロ編曲）：

September [with 日本フィルメンバー]

和泉宏隆（エリック・ミヤシロ編曲）：宝島

SS ¥7,000 S ¥6,000 A ¥4,500 B ¥4,000 C ¥3,000
Gs (65歳以上) ¥3,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急（横浜みなとみらいホール向かい）にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食：下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。（4名様まで）※除日および対象外メニューあり

オールディダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) / 広上淳一

公式X (元 Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋 アシスタント・ コンサートマスター 千葉清加 第1ヴァイオリン 伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 柳 渚 竹蔵夏鈴 谷崎大起 田村昭博 中谷郁子 西村優子 平井幸子 本田純一 第2ヴァイオリン 遠藤直子 大貫聖子 岡田紗弓 加藤祐一 ○神尾あずさ 川口 貴 佐藤駿一郎 末廣紗弓 豊田早織 町田 匡 松川葉月 山田千秋 ヴィオラ ☆安達真理 江藤史織 小俣由佳 小中澤智道 児仁井かおり 高橋智史 中川裕美子 中溝とも子 松澤雅奈 ソロ・チェロ 門脇大樹 菊地知也 チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 山田智樹 コントラバス 鈴木優介 ○高山智仁 成澤美紀 ○宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之 フルート 齋藤光晴 難波 薫 ○真鍋恵子 オーボエ 佐竹真登 ○杉原由希子 ○松岡裕雅 クラリネット ○伊藤寛隆 ○楠木 慶 照沼夢輝 堂面宏起 ファゴット 大内秀介 ○鈴木一志 ○古吉佑久子 中川日出鷹 ホルン 伊藤 舜 宇田紀夫 ○信末碩才 原川翔太郎 ☆丸山 勉 村中美菜 ソロ・トランペット オッタビアーノ・ クリスト・フォリ トランペット 大銅伸紀 ◎大西敏幸 中里州宏 中務朋子 星野 究 トロンボーン ◎伊藤雄太 笠間勇登 バス・トロンボーン 中根幹太 テューバ 柳生和大 ティンパニ □池田健太 ◎エリック・バケラ パーカッション 大河原 渉 ハープ 松井久子 楽団長 星野 究 チーフステージマネージャー 阿部紋子 ステージスタッフ 長橋健太 森田大翔 チーフインスペクター 佐藤駿一郎 インスペクター 宇田紀夫 鈴木優介 ライブラリアン 鬼頭さやか 杉本哲也 ◎首席奏者 ○副首席奏者 ☆客演首席奏者 □試用期間	理事長 (代表理事) 平井俊邦 副理事長 (代表理事) 五味康昌 専務理事 (代表理事) 福井英次 常務理事 (代表理事) 後藤朋俊 理事 石井啓一郎 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 中根幹太 福本ともみ 監事 上條真夫 福澤宏哉 評議員会会長 加藤丈夫 評議員 青井 浩 安孫子 正 荒崎康一郎 石塚邦雄 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宜夫 海堀周造 梶浦卓一 河北博文 喜多崇介 木村恵司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 西澤 豊 野間省伸 葉田順治 村上典史子 山口多賀幸 名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔 アドバイザリー・ボード 小野敏夫 小網忠明 後藤 茂 武田隆男 田邊 稔 溝口文雄 コミュニケーション・ディレクター マイケル・スペンサー マネジメント・スタッフ 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子 荻島里帆 賀澤美和 柏熊由紀子 小須田萌 佐々木文雄 澤田智夫 篠崎めぐみ 杉山綾子 杉山まどか 高橋勇人 田中正彦 槌谷祐子 中村沙緒里 西田大輔 長谷川珠子 藤田千明 別府一樹 益満行裕 宗澤晶子 山岸淳子 吉岡浩子 シニア・パートナー 新井康久 伊波 睦 永島義郎 南部洋一	団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 伊波 睦 遠藤 功 遠藤剛史 大石 修 大川内 弘 大味 修 寛 美知子 金本順子 蒲谷隆行 川口和宏 菊田秋一 岸良開城 吉川利幸 木村正伸 小林俊夫 小山 清 斎藤千種 佐々木裕司 佐藤裕子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 田沢 烈 立川和男 堂阪俊子 富樫尚代 豊田尚生 中川二朗 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克己 松本伸二 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 渡辺哲雄
---	--	---

(2024年1月1日現在)